［研究ノート］

存在文の日中対照

―― テイル／テアル／ラレテイル文とそれに対応する中国語 ――

北村よう

0．はじめに

動詞の自他の使い分けは，日本語学習者にとって日本語文法の中でも特に難しい項目のひとつに数えられるだろう。初級の現場においては，いわゆる結果の状態の自動詞＋テイル，続いて他動詞＋テアルが導入されたときに，混乱が起こることが多い。

本稿は，日本語の小説と，その中国語の翻訳を用いて，日本語のテイル（結果の状態），テアル，ラレテイルが中国語ではどのような文型に対応しているかを調べる。それによって，中国語話者が日本語の自他動詞の区別を難しく感じる要因をさぐる。

本稿では，テイル／テアル／ラレテイルを使った文の中でも，「壁に絵がかかっている／かけてある／かけられている」のような，ニ格で場所が表されているものを取り上げる。この文型に対応する中国語は存在文（中国語では存在句）に属するが，この中国語の存在文の文法的特徴が，日本語のテイル／テアル／ラレテイルの混乱の原因のひとつと考えられるからである。存在文との関連で，所在文についても取り上げる。

1．存在文と所在文

テイル／テアル／ラレテイルを使った文（以下「テイル／テアル／ラレテイル文」と称する）には，大きく分けて，「＜場所＞ニ　＜存在主体＞ガ　Vテイル／テアル／ラレテイル」という語順をとる存在文タイプと，「＜存在主体＞ハ　＜場所＞ニ　Vテイル／テアル／ラレテイル」という所在文タイプがある。対応する中国語は，それぞれ以下のようになる。

A．存在文タイプ
＜場所＞　V着／了[1)]　＜存在主体[2)]＞

たとえば，1）のようなものである[3)]。

１）衣架上挂着大衣。
　　ハンガーにコートがかかっている／かけてある／かけられている。

所在文は，次のような形になる。

B．所在文タイプ
＜存在主体＞　V　在＜場所＞

１）の存在文タイプに対応する所在文タイプは２）のようになる。

２）大衣挂在衣架上。
　　コートはハンガーにかかっている／かけてある／かけられている。

ところで，このような存在文と同じ語順をとるタイプに，隠現文（現象文）がある。存在文と隠現文を合わせて存現文と呼ぶが，中国語の存現文においては，日本語の「＜主体＞ガ」に対応する項が動詞の後ろに来るという点で，一般的な SVO の語順とは異なる。

存現文と，一般的な語順の文の違いについては，すでに多くの指摘があり，中国語の参考書などにも記述がある。たとえば，彭他（2006）は，お客が来ることを予想しておらず，それがだれかわからない場合３）を用い，客はすでに知っている人で，ちょうど待っていた場合は４）を使うと説明している[4)]。

３）来　客人　了。
　　客が来た。

４）客人　来　了。
　　客 は／が 来た。

このような現象について，澤田・中川（2004）は，「無標語順（場所が文頭に来る有標語順に対立するものとして――筆者注）における文頭要素は有題・無題が未分化な状態にある」と述べている[5)]。

では，テイル／テアル／ラレテイルがついた存在文の場合はどうだろうか。２.では，実例をもとに対応関係を見てみる。

２．語順の問題――存在文か所在文か

はじめに，日本語の存在文タイプが中国語でも存在文タイプに対応している例をあげる。すなわち，日本語で「＜場所＞ニ（ハ）　＜存在主体＞ガ　Vテイル／テアル／ラレテイル」が

中国語で「＜場所＞　V　＜存在主体＞」と訳されている例である。

5）公園には欅と桜が交互に植えられていた。（センセイの鞄）
公园里交错种植着榉树和樱花。

6）（略），次の八畳間には本やら原稿用紙やら新聞やらが散らばっていた。
（センセイの鞄）
而与之相连的八叠房间则到处散乱着书籍，稿纸和旧报纸之类的东西。

7）テーブルの上にはざる蕎麦が三人分用意されている。（オーバー・タイム）
桌上放了够三个人吃的小笼荞麦面条。

これらは日本語でも中国語でも場所が文頭に来る存在文タイプになっている。しかし，日本語で存在文タイプの文が，中国語では「在」を用いた所在文タイプになっているものもある。

8）不穏な空気が，センセイとわたしの間にたちこめていた。（センセイの鞄）
一种不安的气氛笼罩在我和老师之间。

9）土鍋のいやに大きいのが店先に飾ってある。（センセイの鞄）
巨大的沙锅陈设在店门口。

10）花びらが一枚，酒に浮かんでいる。（センセイの鞄）
一片花瓣浮在酒中。

11）春子が記事を書いている週刊情報誌が，テーブルの上に置いてあった。
春子为之撰搞的信息周刊就放在桌上。

これらの例では，日本語文がいずれも「＜存在主体＞ガ　＜場所＞ニ　V」の語順となっている。典型的な存在文では，場所名詞が存在主体に先行するが，8）～11）では存在主体がガでマークされて文頭に来ている。中国語訳では，動詞の位置が日本語とは違うものの，存在主体が場所に先行している点で日本語と共通である。このようなガ格は，主題のハでマークされているわけではないが，文頭に来ているという点で，主題に近い役割を果たしているのではないだろうか。その準主題的な役割が，ちょうど中国語の「有題・無題が未分化な状態」（澤田・中川2004）に対応して，このような訳になっていると考えられる。

3．自他動詞の選択

日本語では存在文を作る際，自動詞の場合はテイルをつけ，他動詞の場合はテアルをつけるか動詞を受身形に変えてテイルをつける，というように，自動詞と他動詞で存在文の形式が異なっている。これに対して，中国語では，存在文においては自動詞と他動詞の対立がなくなりどちらも同じ形で使われる。つまり，他動詞に分類される動詞でも，存在文では動作主が現れず，自動詞と同じ働きをしている。このことから，中国語話者が結果の状態のテイルとテアルを学習する際に混乱することが予想されるが，実際にはどのような対応関係になっているのだろうか。日本語と中国語の自他の組み合わせは下の４種類になる。

日本語	中国語
自動詞	自動詞
自動詞	他動詞
他動詞	自動詞
他動詞	他動詞

まず，日本語で自動詞＋テイルが中国語でも自動詞で訳されているものから見てみよう。以下では，中国語の自他の判断は日中辞典での訳語を参考にした[6)]。

12）部屋の前にまだ若い欅が数本かたまって生えているのである。（センセイの鞄）
房屋前生长着几颗嫩嫩的榉树，簇拥在一起。

13）～，いちばん下に開いた穴にはぶらぶらと揺れる殊に光ったのが，下がっている。（センセイの鞄）
～，最下面的耳洞里，垂了一颗摇摇晃晃的玩意儿，格外闪闪发光。

14）わたしたちが抜け出したときには，焼きとりの串や酒の空き瓶やイカのくんせいの袋などがたくさん散らばり，敷物の上には花見の人びとがぎっしりと座っていたのに，今では土手の上には何の気配もない。（センセイの鞄）
在我们悄悄溜走的时候，烤鸡肉串竹签，空酒瓶以及熏鱼的空包装袋等等，扔得到处都是，垫布上坐满了赏花的人们。

ほかに，上であげた，６）もこのグループに入る。

次に，自動詞＋テイルが中国語で他動詞を使った存在文に訳されている例を見てみる。

18）パッと開かれた見合い写真には，40歳くらいのちょっと太めで髪は薄めの男性が写っ

ていた。（オーバー・タイム）
“啪”地一声打开地相亲照片上，赫然印着一个四十岁左右，稍胖，微秃的男人。

19）今朝の新聞を広げてみると，日曜版の一面には，『2000年への風景』の連載が載っていた。（オーバー・タイム）
翻开今天早上的报纸，发现周日版刊登了《迎向2000年的风景》的连载。

‘登’は，愛知大学編『中日大辞典』には「記載する・のせる（のる）」とある。自動詞用法もあるが，他動詞が優勢ということでここに入れておく。日本語で他動詞，中国語で自動詞となる存在文はまだ見つかっていないが，次のような例があった。

20）沼の面をホテイアオイやら浮草やらがおおっている。（センセイの鞄）
水潭的水面上漂浮着凤眼蓝和浮萍之类的水草。

日本語では他動詞文が使われているが，対応する中国語では‘漂浮’という自動詞を使い，＜ホテイアオイや浮き草が水面を漂っている＞という意味の存在文になっている。ただし，もとの日本語も他動詞ではあるが，他動性の低いものであり，「～を含んでいる」「～を占めている」などと同様に，他動詞＋テイルで状態を表している。
４番目は，日中両語で他動詞が使われているものである。

21）黒板に今日の献立がチョークで書かれている。（センセイの鞄）
黑板上用粉笔写着今日的菜单：（略）

22）ふと見ると，キッチンのゴミ箱の中に，ミステリー大賞の結果通知が捨ててある。（オーバー・タイム）
不经意地一瞥，她发现厨房的废纸篓里扔着侦探小说大奖的结果通知。

上の５）７）もこのグループに入る。いずれも，日本語では他動詞の場合は，テアルをつけるか，受身形にしてテイルをつけるかして，テイルをつける自動詞とは違った形で結果の状態を表している。それに対して中国語では存在文にすることで，結果の状態を表すと同時に他動詞を自動詞化していると言えよう[7)]。

４．おわりに

以上，日本語のテイル／テアル／ラレテイル文とその中国語の対応について見てきた。ここから考えられるのは，中国語話者が日本語のテイル／テアルを学ぶ際に中国語からの類推で難しさを感じ，また混乱する可能性があるということである。

語順では，まず，存在文を使うか所在文を使うかという選択の問題がある。動詞の選択も学習者が迷うところだろう。自動詞を使うのか他動詞を使うのかを決めると同時に，動詞の後ろの形式（テイル／テアル）も選ばなければならない。もともと自動詞他動詞を区別する形態的手段が日本語より少ない上，存在文では自動詞でも他動詞でも同じ文型を使うことから，日本語のテイル／テアルを学習する際に混乱することは十分予想できる。

また，本稿では詳しくふれなかったが，中国語の存在文でアスペクトマーカーのテイルに対応する‘着’とタに対応する‘了’[8]が交替可能であることは，‘了’をタと訳して存在文の文型を使わない，という誤用の可能性も示唆している。

本稿では存在文，所在文のみを扱ったが，動詞の自他を考える場合は，アク vs. アケルや，コワレル vs. コワスのような，できごとや動作の表現での自他対応関係も見る必要がある。今後の課題としたい。

注

1）存在文における‘着’と‘了’の違いについては，丸尾（2007），任（2000），王（2007）等を参照されたい。
2）＜存在主体＞は，有生の場合も無生の場合もあるため，＜存在物＞ではなく，＜存在主体＞とした。
3）郑 / 冯（2010）p. 30の例。郑 / 冯（2010）は，「大衣衣架上挂着。」という語順の文もあげているが，本稿では扱わない。
4）彭他（2006）p. 263.
5）澤田・中川（2004）pp. 30-31.
6）郑 / 冯（2010）では，存在文で自動詞になるものを自他両用動詞としているが，本稿では他動詞として扱った。
7）望月（2009）は，「中国語では，文型（存現文をさす――筆者注）から自動詞としての機能が与えられ，動詞そのものの形態が自他の機能によって変わらない」と述べている。ただし，日本語でも，方言によっては動詞の自他にかかわらず，ひとつの形式で結果の状態を表すことがある。工藤／八亀（2008）pp. 38-43参照。
8）常に‘着’―テイル，‘了’―タが対応するわけではない。

用例出典

川上宏美『センセイの鞄』（文春文庫）
　施小炜 / 张乐风译《老师的提包》
北川悦吏子『オーバー・タイム』（角川書店）
　李建云译《加时赛》（上海译文出版社）

参考文献

王学群（2007）「存在文における“Ｖ着”と“Ｖ了”」『中国語の“Ｖ着”に関する研究』白帝社
工藤真由美・八亀裕美（2008）『複数の日本語　方言からはじめる言語学』講談社選書メチエ
澤田浩子・中川正之（2004）「中国語における語順と主題化」益岡隆志編『シリーズ言語対照＜外から見る日本語＞　第５巻　主題の対照』くろしお出版
張麟声（1991）「中日様態存在表現の対照研究」『月刊言語』20-７

丸尾誠（2007）「中国語に見られる完了と結果の接点―“Ｖ了”と“Ｖ着”を例として―」彭飛編『日中対照言語学研究論文集』和泉書院
望月圭子（2009）「中国語を母語とする上級日本語学習者によるヴォイスの誤用分析―中国語との対照から―」『東京外国語大学論集』第78号 , online
顾阳（2000）＜论元结构及论元结构变化＞沈阳編《配价理论与汉语语法研究》语文出版社
李杰（2007）《现代汉语不及物动词带主事宾语句研究》学林出版社
李临定（1986）《现代汉语句型》商务印书馆
彭小川 / 李守纪 / 王红（2006）《对外汉语教学语法释疑201例》商务印书馆
任鹰（2000）＜静态存在句中“Ｖ了”等于“Ｖ着”现象分析＞《世界汉语教学》2000年01期
郑汀 / 冯素梅（2010）〈静态存在句“Ｖ着”语义再考 - 兼与日语「Ｖている／Ｖてある」比较〉《日语学习与研究》2010年第２期

北村よう